「つくる会」系教科書の採択阻止に向けガンバローを三唱する市民ら＝17日、石垣市・大川公民館

つくる会系教科書採択を危ぐ

八重山350人が反対集会

【八重山】八重山地区の中学校教科書の選定問題をめぐり、「子どもと教科書を考える市民集会」（主催・子どもと教科書を考える八重山地区住民の会）が17日、石垣市の大川公民館で開かれた。市民ら約350人（主催者発表）が「子どもたちに誤った歴史観を持たせる育鵬社、自由社版の歴史・公民教科書の選定・採択に断固反対する」決議案を採択した。戦争体験者や教育関係者、保護者らが八重山での採択を危ぶみ、両社教科書の採択阻止に向けた声を続々と上げた。

（22面に関連）

集会では沖縄戦時、「集団自決（強制集団死）」から生き残った吉川嘉勝さん（72）が自身の体験を報告。集団自決の軍関与を記述していない両社教科書に対し、「日本軍がいない島では自決は起こっていない。皇民化、軍国主義教育などが集団自決を後押し可能にした」と強調。「日本の教育が右傾化しつつある。そのような教育の改悪の流れに、八重山地区が乗ろうとしている」と批判した。

琉球大学教育学部の山口剛史准教授は、教科用図書八重山採択地区協議会長によって現場教員の意向が弱められ、教育委員らでつくる協議会の権限が強められた制度変更と、横浜市などで「つくる会」系教科書が採択された経緯との類似点を紹介。「教育委員という行政の権威で教育の方向性を決めると、政治の不当な介入が教育行政の名のもとに執行されてしまう可能性がある」と危ぶんだ。

保護者代表の仲舛健さん（40）は「私たちの世代は体験者の生の声で戦争の悲惨さや愚かさを学べた。戦後66年たって戦争体験の風化が叫ばれる中、子どもたちには正しい方法で選ばれ、沖縄の歴史を正しく伝える教科書で学び、世界に羽ばたいてほしい」と望んだ。

２０１１年８月１８日沖縄タイムス

県教委へ経緯報告

教科書選定 大城教育長

県教育委員会（中野吉三郎委員長）の定例会議が17日にあり、八重山地区の中学校教科書選定をめぐる問題の経緯や、同委員会の一連の対応について、大城浩教育長が報告した。

（1面参照）

大城教育長は、八重山採択地区協議会の無記名投票と名簿の非公表について疑問視し、「誰がどのように選んだか分からなくなる。文部科学省も見解を示しているが、委員は事後公表することが望ましい。委員の一人一人が見識をしっかり持ちながら、適正な選択をしてほしい」と語った。

また、同協議会が委員を突然入れ替えたことや、選定作業の途中で規約が変更されたことなどを挙げ、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律などに基づき、3日に要請、10日に指導、助言したと説明した。

中野委員長は「経過中であるので報告を受けるだけにし、今後状況に応じ対応していきたい」とした。

「早く除染して」「転校つらい」

福島の子、国へ思いぶつけ

た故奈学のらる　にたがなで東一

東京電力福島

さん（中央）

２０１１年８月１８日沖縄タイムス